

島内住民の 生活安全確保策を

Q



守家英明議員

広島ではイノシシ被害が増加し、大きな問題となっている。防護柵の設置補助や猟銃免許等の資格取得補助、報奨金の増額など、現在も十分な対応がされているようにも思われるが、今後は、農作物の被害対策としてだけでなく、島民の生活安全確保策の対策が必要と考えるが、いかがか。



イノシシが駆け上がった痕跡か

A

市長 本市では、イノシシの捕獲数が年々増加傾向にあり、地道に行ってきた取り組みが功を奏していると認識しているが、個体数そのもの増加は否めない。イノシシによる被害や影響を一度に解決できる抜本的な対応策の展開は非常

に困難な課題であるため、これまで取り組んできた事業を着実に継続実施していくとともに、農作物や市民生活への被害が今以上に拡大することのないよう、捕獲に関するさらなる事業の拡充や制度設計の見直しを適宜検討していく。



分散する核をつなぐ 交通ネットワーク構想

Q



真鍋順穂議員

市庁舎が完成し、併設のマルタスは期待どおりのにぎわいを見せている。次なる市民会館もいよいよ実施設計の最終段階となったが、シャッター街と化した市街地は、再びにぎわいを取り戻すに至っていない。人口減少と高齢社会の進展の渦中において、分散する核をつなぐ、交通ネットワーク構想は。



移動手段の確保は生活の要

A

都市整備部長 本市には、海沿いと山沿いの東西に鉄道が走り、南北をコミュニティバス路線で結ぶ良好な公共交通ネットワークが形成されているが、今後の人口減少、超高齢社会の進展に対応するため、現在は、新たな公共交通手

段の導入を検討している。将来的には既存の公共交通ネットワークに加え、デマンド等のきめ細やかな移動サービスを導入することにより、さらに公共交通ネットワークの強化を図り、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進めたい。



電動バイクや車椅子の 充電スポットを



東 由美 議員



三輪で安定感のある電動バイク

Q

電気自動車より安価で、自転車よりも少し速く遠くまで到達できる電動バイクが注目されている。高齢者の免許返納後の移動手段として、歩道を走行できる次世代電動車椅子も発売された。環境に優しい交通移動手段を推進するため、公共施設を充電スポットとしてはどうか。



A

総務部長 電動バイクの充電スポット設置には、

外部電源等ハード面の確認や、充電に使用した電気料金の価格設定等運用面での検討が必要となる。また、今後、国内のカーボンニュートラルへの機運の高まりにつれ、まだまだ普及が進

んでいない現状ではあるが、販売数が増加することも想定されるため、ゼロカーボンドライブの推進に向け、公共施設での電源設備面等も勘案をしながら、充電スポットの設置について検討を進めていきたい。

老朽化した 垂水橋の架け替えは



大西 浩 議員



改修が必要とされる 垂水橋

Q

垂水橋は、幅員6mの1車線で、朝夕に長い渋滞が発生するうえ、歩道や自転車道もなく、利用者の不安は増幅している。現在の通行量、通行形態にそぐわない垂水橋の形状や劣化状況、また、昨今の豪雨や地震など、防災上の観点からも早急な架け替えが必要と考えるが、市の見解は。



A

市長 垂水橋は、1日に1万台近くの車両に加

え、歩行者、自転車を利用する橋梁であるが、路面や欄干に傷みが見られ、利用者や近隣住民からは、老朽化を懸念する声が届いている。狭隘な橋梁にもかかわらず利用者が多く、抜本的

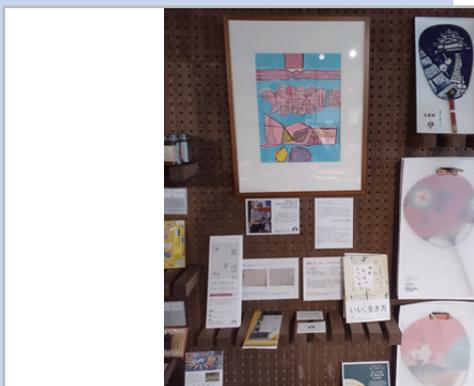
な改修も必要ではないかと考えている。建設行政に精通する新知事のもと、この機を垂水橋の状況改善の追い風と捉え、架け替えを含めた対応がなされるよう、県に対して強く要望していきたい。

MIMOCAとコラボ 活気あるまちづくりに



福部正人議員

猪熊弦一郎現代美術館と商店街が連携した催しがあった。今回は瀬戸芸の一環だったが、猪熊美術館の作品等を商店街に展示し、駅周辺の周遊、滞在を促進してはどうか、また、ミュージアムグッズを直接見て購入できるスポットを商店街に設置する、または、既存店舗とのコラボを行うなども有効と考えるが、どうか。



商店街の店舗に飾られた猪熊作品 (OIKAZEショップ)

A 市長 猪熊弦一郎現代美術館では、令和元年度より市内の商店や飲食店で、猪熊画伯の複製画を展示する「いのくまさんのスケッチブック」を展開しており、このうち、商店街では9店舗に協力をいただいている。今後は、中央商店街振

興組合連合会や関係団体と連携し、秋寅の館や旧重元果物店店舗などでの作品展示、いわゆるブランチャギャラリーの展開も視野に入れ、駅周辺の周遊、滞在を促し、活気のある中心市街地の創出に努めていく。

発掘調査の成果と 今後のスケジュールは



加藤正員議員

市の南東部、綾歌町栗熊東にある快天山古墳では、現在、発掘調査が行われている。快天山古墳保存活用計画に基づいた作業が進められているが、今回の調査の内容と新事実の発見について、説明を。また、それらを踏まえ、今後のスケジュールは。



快天山古墳 石棺蓋

A 教育部長 今回は、2号石棺と3号石棺の予備調査を行っており、埋葬後の石棺を埋める素材が2号埋葬地帯は石材、3号埋葬地帯は粘土で厚く覆われているなど相違があり、被葬者の階層などに関わる貴重

な資料を得ることができた。来年度には、今回同様の予備調査を1号石棺と3号石棺で行う予定だが、昭和25年の調査時にはなかった新たな石棺の亀裂が確認されたことから、調査計画を見直す必要が生じている。

安全安心で快適な 公共施設管理を目指して

Q



横川重行議員

2017年の公共施設等総合管理計画策定から5年が経過している。計画どおり推移しているのか。また、ウクライナ侵攻やコロナ禍など、世界情勢も変わり、物価も大きく変動している。人口問題等も含め、厳しくなることは想定できるが、計画見直しの考えは。



公共施設にはメンテナンスも

A

市長 総合管理計画策定後は、市庁舎や市民交流活動センター整備のほか、コミュニティセンターの建て替えや学校長寿命化計画に基づいた改修等、各個別施設計画や施設類型ごとの基本方針に即して、着実に実施している。現在策定し

ている総合管理計画は、平成29年度から令和8年度までを計画期間としており、計画中に定めた総合的な基本方針や実施方針また、各個別施設計画についても、現時点では、大きな見直しは不要と考えている。

SOS

声をあげられる環境を

Q



角野仁美議員

近年、学校という閉鎖的空間で、暴力行為や肉体的、精神的な苦痛を強いるスクールハラスメントが起きていると言われている。暴力に対して声を上げることが、大人でも勇気が要る。学校でも「嫌だ」「助けて」と声を上げることがいいことだ、許されるのだ、と教えてほしい。市の見解は。



助けを求める 勇気をもって

A

教育長 学校では、教育活動全体を通じて道徳教育、人権同和教育を行っており、生命の尊さや自分を大切に思う心、他を思いやる心、善悪の判断などの育成を図っている。その中で、自分が嫌だと感じたことは嫌だと言っても良い

こと、相手が嫌だと言ったときは、相手の気持ちを受け入れることについても、指導している。今後も主体的に判断し、適切に行動できる児童・生徒の育成を目指し、引き続き、道徳教育、人権同和教育の充実に努めていく。